

<英語語法マスター⑮> 形容詞の語法①

① 数や量を表す形容詞

<可算名詞につけて「数」を表すタイプ>

① () 「たくさんの」 = () + 単数形 ← () 扱い!

I've sat here many times / many a time. 「私はここに何度も座った」

・ () + 複数名詞: 「 」

② () 「いくつかの」 ≡ () 「少しの・2・3の」

She gave me several books. 「彼女に何冊もの本をもらった」

I've got a few books on education. 「教育に関する本を2,3冊持ってる」

※ several は「多い」ニュアンスの、a few は「少ない」ニュアンスの「いくつかの」

③ () 「ほとんど〜ない」 ← 比較級 () もよく出る!

Children have fewer teeth than adults. 「子どもは大人より歯が少ない」

④ () = () 「かなり多数の」

<不可算名詞につけて「量・程度」を表すタイプ>

① () 「たくさんの・多量の」 ← 否定文で 「 」 という意味!

They do not have much company. 「彼らには仲間があまりいない」

↑ many companies では「多くの会社」となる

② () 「少しの」

We spent a little time in Rome. 「ローマでしばらく時間を費やした」

③ () 「ほとんど〜ない」

I have very little money left. 「お金はわずかしが残っていない」

④ () 「たくさんの・多量の」 = much

We had a good deal of snow last winter. 「去年の冬は雪が多かった」

() = () 「かなりの量の」

☆ () 「 」 ← () で

(例) a large amount of damage 「相当な被害」 量の大小を表す

※ 可算・不可算両方につく → () ・ () ・ () ・ ()

など

② 注意すべき「多少」の表現

「多い・少ない」を表すのに、以下の語は many や much は使えない!

① (/)タイプ

- ① ()「量」/② ()「出席者」/③ ()「聴衆」
 ④ ()「群衆」/⑤ ()「費用」/⑥ ()「収入」
 ⑦ ()「数」/⑧ ()「家族」/⑨ ()「人口」
 → ()「多くのA」← 複数扱い
 ()「Aの数」← 単数扱い
 ⑩ ()「給料」/⑪ ()「金額」

(例) ○ The number of cars was rather small. 「車の数はかなり少なかった」
 × The number of cars was rather few.

(注) 距離・高さなどのような線状の大きさには () を用いる。

The town is a great distance off. 「町はずっと遠い」

② (/)タイプ

- ① ()「費用」/② ()「収入」/③ ()「利子」
 ④ ()「報酬」/⑤ ()「価格」/⑥ ()「給料」
 ⑦ ()「賃金」

(例) The price of the camera is high. 「そのカメラの値段は高い」

→ The price of the camera is expensive/cheap. は ×

③ 目的語をとる形容詞

形容詞の中には目的語をとるものがある。→ () として考える!

① ()「似ている」 I have a dress like yours. 「あなたのドレスにそっくりなものを^{持っている}」

② ()「近い」← 比較級や最上級、抽象的意味に用いるときに () を伴う。

His thoughts were near to mine. 「彼の考えは私の考えに近かった」 ↑ 省略可

③ ()「反対の」

④ () + () 「Vする価値がある」

= ()

This book is worth reading (○). 「この本は読む価値がある」

<英語語法マスター①⑥> 形容詞の語法②

① 分詞形容詞

surprise 「驚かせる」、excite 「興奮させる」など感情を表す動詞系は「する」ではなく、「させる」というのがデフォルト!

→ 原因が人にある感情を起こさせる というイメージ!

The news surprises me. 「そのニュースは私を驚かせる」

↓
こういった動詞が「be動詞 + Ving」や「be動詞 + Vp.p.」の形で使われると、それぞれの分詞は () として扱われる! これを分詞形容詞と呼ぶ。

① Vingは能動 → 原因をSにして 「 」という形

The news was surprising. 「そのニュースは驚かせていた」
→ 「そのニュースは驚きだった」

名詞の前に分詞形容詞をつけるときにはその名詞が 「 」となる。

This is surprising news. 「これは驚きのニュースだ」
(原因)

② Vp.p.は受動 → ()をSにして 「 」という形

I was surprised at the news. 「私はそのニュースに驚かされた」
→ 「私はそのニュースに驚いた」

名詞の前にVp.p.の形容詞をつけるときはその名詞が「(ある原因によって感情を引き起こされた)人」となる。 an excited audience 「エキサイトした観衆」

<分詞形容詞>

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| ① { () 「驚嘆すべき」
() 「驚嘆して」 | ② { () 「面白い」
() 「楽しんで」 |
| ③ { () 「驚くべき」
() 「驚いて」 | ④ { () 「退屈な」
() 「退屈して」 |
| ⑤ { () 「混乱させる」
() 「混乱して」 | ⑥ { () 「期待はずれの」
() 「失望して」 |
| ⑦ { () 「刺激的な」
() 「興奮して・わくわくして」 | ⑧ { () 「恐ろしい」
() 「おびえて」 |
| ⑨ { () 「楽しい」
() 「喜んで・気に入って」 | ⑩ { () 「満足のいく」
() 「満足して」 etc |

②「人」を主語にできない形容詞

< easyタイプ >

- ①()「危険な」/②()「とてもゆかいな」
③()「難しい」/④()「簡単な」/⑤()「難しい」
⑥()「不可能な」/⑦()「興味深い」
⑧()「苦痛な」/⑨()「楽しい」

[1] 上記の形容詞は、()の形で用いられる!
→ ()の形の構文に書き換えることは不可!

(例) ○ It is easy for you to solve that problem. 「その問題を解くのは
× You are easy to solve that problem. 「君には易しい」

[2] このタイプの形容詞は、to V BのBをSにして()
の形の構文【タフ構文】を作ることができる!

(例) That problem is easy for you to solve. 「その問題は君には
簡単に解ける」

[3] このタイプの形容詞は名詞の前においてその名詞を()する用法も可

(例) That is an easy problem for you to solve. 「それは君が解くには
簡単な問題だ」

< convenientタイプ >

- ①()「便利な」/②()「不便な」

[1] この2語は easyタイプに属するので用法は easyタイプと同じ。←タフ構文は不可

(例) It's not convenient for us to send him. 「彼に行ってもらうのは
× We are not convenient to send him. 私たちには都合が悪い」

[2] convenientは「」を主語にした文を作る。←この場合も⊙S ×

(例) When is it convenient for/to you? 「都合がいいのはいつですか」

< possibleタイプ >

- ①()「重要な」/②()「必要な」/③()「可能な」

[1] easyタイプの形容詞と同じ語法だが、[2]と[3]の構文は不可!

(例) It's possible for me to read the book in a day. 「私は1日でその本を読む」

<英語語法マスター⑰> 形容詞の語法③

1 意味が混同しやすい形容詞

①	{ () 「よく似て」 ← () のみにしか使えない (x) alike twins () 「ありそう」 cf. () 「	
②	{ () 「生きて(いる)」 ← () のみにしか使えない (x) alive animals () 「生き生きとした」「活発な」	
③	{ () 「思いやりのある」 () 「かなりの」	④ { () 「子どもらしい」 () 「子どもっぽい」
⑤	{ () 「経済の」 ← 節約的な () 「経済的な」	⑥ { () 「お気に入りの」 () 「好都合の」
⑦	{ () 「忘れられやすい」 () 「(人が)忘れっぽい」	⑧ { () 「健康な」 () 「健康に良い」
⑨	{ () 「歴史上有名な」 () 「歴史の」	⑩ { () 「産業の」 () 「勤勉な」
⑪	{ () 「評価できないほど貴重な」 () 「価値のある」 () 「大変貴重な・値が付けられない」	{ () 「価値のない」は () = worthless
⑫	{ () 「想像できる」 () 「想像上の」 () 「想像力に富んだ」	⑬ { () 「読み書きのできる」 () 「文字通りの」 () 「文学の」
⑭	{ () 「男らしい」 () 「(女性が)男っぽい」	⑮ { () 「(人が)後悔して」 () 「(事が)残念で」
⑯	{ () 「立派な」 () 「それぞれの」 () 「礼儀正しい」	⑰ { () 「成功した」 () 「連続の」 () 「次の」
⑱	{ () 「敏感な」 () 「分別のある」	⑲ { () 「社会の/社交界の」 () 「社交的な」
⑳	() 「眠たい」 / () 「眠って」 ← () のみにしか使えない	

② It is ~ of 人 to V の構文

< It is + 形容詞 + of + 人 to V > の形で「」という意味
を表す。このパターンに使われる形容詞は以下の語!

- | | | |
|-------------|----------------|-----------------|
| ① () 「大胆な」 | / ② () 「不注意な」 | / ③ () 「利口な」 |
| ④ () 「残酷な」 | / ⑤ () 「愚かだ」 | / ⑥ () 「親切な」 |
| ⑦ () 「正直な」 | / ⑧ () 「親切な」 | / ⑨ () 「親切な」 |
| ⑩ () 「無礼な」 | / ⑪ () 「利己的な」 | / ⑫ () 「愚かだ」 |
| ⑬ () 「邪悪な」 | / ⑭ () 「賢明な」 | / ⑮ () 「まちがいた」 |

[1] 上記の形容詞は、「①に対する判断」を示す。() を主語にした文も可!

(例) It was foolish of you to make such a mistake.

→ You were foolish to make such a mistake.

「あんな誤りをするなんて君はばかだった」

⑤ この構文は () の形に書き換えは不可!

[2] この構文の () では () を省略することができる。

(例) How foolish (it was) of you to make such a mistake!

「あんな誤りをするなんて君はなんというばかだったのだろう」

[3] 上記の形容詞の中で () の形でも意味の通じるものは、

"It is ~ for ① to V" の構文でも用いられる。

(例) It would be foolish for us to make such a mistake.

「あんな誤りをするなんてばからしいことだ」

⑤ 両方の型でよく使われるものは foolish, rude, stupid, wicked, wise など

③ 「できる・できない」の形容詞

① () → () をとり、() を主語にとる。() の形をとることはない。反意語は () 受身も NG!

(例) She was able to do the job. 「彼女にはその仕事ができる」

② () → () をとり、() が文の主語になる。

↔ () () の形をとることはない。

(例) She was capable of doing the job.

③ () → () は主語にならない。← 第16構参照

<英語語法マスター⑧> 形容詞の語法④

① 補語専用の形容詞

形容詞には補語になる用法 [= 用法] と名詞を(前から)修飾する用法 [= 用法] の2つがある。

→ どちらか一方の用法しかないものや、用法によって意味が違ふものがある!

<補語[叙述用法]でしか用いない形容詞>

- ① () 「恐れて」/ ② () 「よく似て」/ ③ () 「生きて」
 ④ () 「ひとりで・孤独な」/ ⑤ () 「恥じて」/
 ⑥ () 「眠って」/ ⑦ () 「目が覚めて」/ ⑧ () 「気付いて」
 ⑨ () 「満足して」/ ⑩ () + to V 「責任があって」
 ⑪ () + to A 「」/ ⑫ () + to V 「」
 ⑬ () 「健康な・好都合な」/ ⑭ () + ⑮ (Ving) 「の価値がある」
 など

[1] 上記の形容詞は叙述用法のみに用いられる!

(例) (O) The twins are exactly alike. 「その双子はうり二つだ」

(X) They are exactly alike twins.

⑮ well は ⑮ の口語では 「」の意味で限定用法に用いることがある。

[2] これらの形容詞は () に置いてその名詞を修飾することがある。

→ 「」の省略と考える!

(例) I am now the happiest man (who is) alive.

「私は今この世で一番幸せだ」

② 限定用法のみの形容詞

<名詞修飾[限定用法]でしか用いない形容詞>

- ① () 「年上の」/ ② () 「お気に入りの」/ ③ () 「前者の」
 ④ () 「後者の」/ ⑤ () 「生きている」/ ⑥ () 「単独の/ただ1人の」
 ⑦ () 「主な」/ ⑧ () 「ほんの」/ ⑨ () 「近くの」
 ⑩ () 「唯一の」/ ⑪ () 「以前の」/ ⑫ () 「統計の」
 ⑬ () 「上の」(↔ lower)/ ⑭ () 「全くの」/ ⑮ () 「まさにその」
 など

(例) This is the very book I need now. 「これが今私が必要なまさにその本だ」

3 叙述用法と限定用法で意味が変わる形容詞

形容詞	叙述用法	限定用法
① ()	「～することができる」 ↑ () で	「 」
② ()	「 」	「 」
③ ()	「 」	「 」
④ ()	「 」	「 」
⑤ ()	「 」	「 」
⑥ ()	「 」	「 」

(例) You'll be late for the meeting. 「会合に遅れるよ」

※ be late for A: 「 」

He arrived in the late afternoon. 「彼は午後遅くに到着した」

⑥ 1. late は () で限定用法の形容詞として、 「 」 の意味を表す

2. アメリカでは「病気の」の意味では両用法ともに () を用いることが多く、イギリスでは sick は叙述用法では 「 」 の意味に用いる。

3. () は「右の」の意味では () 用法のみに用いる!

4 注意すべき形容詞の名詞のコロケーション

① () : 「 」 ↔ ()

You have the wrong number. 「番号が間違っています」

② () → () : 「 」

③ (/) : 「 」

The traffic is heavy on Sunday. 「日曜日は交通が激しい」

<英語語法マスター①⑨> 形容詞の語法⑤

① It is ~ that節と for A to V

It is ㊦ that ~ と It is ㊦ for A to V はどちらも同じ様に扱われるが、形容詞によってはどちらかの形をとるものと、両方の形をとるものとがある!

< that節を使うタイプ >

- ① () 「明らかな」/② () 「確かな」/③ () 「明らかな」
④ () 「ありそうな」/⑤ () 「明白な」/⑥ () 「明らかな」
⑦ () 「ありそうな」/⑧ () 「本当の」

[1] 「明らかな」「確かな」など「誰かが~した」という () について「本当」とか言っている!

(例) ○ It is true that he is angry with her. 「彼が彼女に腹を

× It is true for him to be angry with her. 立てているのは本当だ」

[2] () がなければ It is true to say ~. などの形は可能!

< for A to Vを使うタイプ >

- ① () 「危険な」/② () 「難しい」/③ () 「易しい」
④ () 「難しい」/⑤ () 「不可能な」/⑥ () 「可能な」

[1] 「易しい」「難しい」など「誰かが何かをする」ことに対して言っているので、実際にするのはわからない。() の話! → to V を使う!

(例) ○ It is impossible for him to master it. 「彼がそれをマスターするのは

△ It is impossible that he masters it. 不可能だ」

[2] possible, impossible が「 . 」の意味のときは () !

(例) It is impossible that he ate it. 「彼がそれを食べたということはありません」

< 両方の形を使うタイプ >

- ① () / () 「驚くべき」/② () 「奇妙な」
③ () 「望ましい」※/④ () 「重要な」※
⑤ () 「当然の」/⑥ () 「必要な」※ などその他多数

[1] 「当然・驚き・遺憾」などの意を表す場合には、It is ㊦ that ~ の構文の that節中の動詞に () をつける。← ｲｸﾞﾘｽ英語 ※印は⊗では 仮定法現在(原形)

(例) It is natural for parents to love their children. 「親が子を愛するのは当然」

②「人」を主語にする形容詞

< sorryタイプ >

- ①()「怒った」/②()「恥じて」/③()「喜んで」
 ④()「失望した」/⑤()「興奮した」
 ⑥()「喜んで」/⑦()「楽しい」/⑧()「喜んで」
 ⑨()「誇って」/⑩()「気の毒だ」/⑪()「驚いた」

[1] 上記の形容詞は④を主語にしてその④の()を表すので、It is ④ for A to V・It is ④ that~の構文には用いない。

(例) I am glad to meet you. 「私はあなたに会えて嬉しい」

× It is glad for me to meet you.

[2] ④を主語にした文では()の両方をとることができる。このto・that以下は両方とも()を示す。

< anxiousタイプ >

- ①()「切望している」/②()「切望している」
 ③()「熱望している」/④()「喜んでする」= ()

[1] 上記の形容詞は④を主語にして、その④の主体的意志・欲求を表す。
 Itや不定詞を主語にした構文には用いられない!

(例) He is anxious to see her. 「彼は彼女に会いたがっている」

× It is anxious for him to see her.

[2] ()または()をとり、通例()を用いる。ただし「喜んでする」の意味では()の形で表す。

③ anxiousやeagerは()の形でも用いる。

[3] 「未来」のことにに関する表現なので、完了形不定詞やthat節内に過去の文は来ない!

(例) I am eager for you to do the work. 「私は君がその仕事をするよう」

× I am eager for you to have done the work. 切望する

③ その他の注意すべき形容詞

- ①()「
 ②()「
 」←()は「(人)が厳しい」
 」←「人」がSだと「